平成30年度
1・2月号
H31.3.6発行

生徒指導通信

青森県立
大間高等学校
生徒指導部

卒業はスタート

私が高校生の頃の卒業式では、『壮行歌』。私の出身高校のオリジナル曲で、退場するというのが伝統だった。この曲をバックに張ってこいよ！」という激励のメッセージが込められていて、運動部の壮行式と、三年生が学校を巣立つ卒業式の時にだけ流す特別な曲だった。こ の曲が大好きだった私は、卒業式の退場の時に歌詞を心の中で口ずさみながら、「寂しい」とか「もう一度やり直せたら」などという気持ちになることは全くなく、むしろ「やってやるぞ！」という新たな決意が体の芯から湧き上がってきたことを今でも覚えている。勉強や部活動で思うような結果を出すことができなかったことよりも、次こそは絶対目標を達成してみせるという前向きな気持ちになっていた自分を、３４年経っても忘れることはない。

先日、大間高校の卒業式が行われた。まだ子供だと思っていた３年生が、何となく大人っぽく見えた。でも、まだ１８歳。「好奇心」とか「ひたむきさ」などは、若者の特性でなければならないと思っているし、私も若い頃は（今も若いと思ってはいるが）好奇心旺盛で、いろんなことにがむしゃらだった。最近は、クールを装い、物事に動じない大人びた若者が多く、情熱的だとか一生懸命頑張っていると見られることを、恥ずかしい、居心地が悪い、面倒くさいと思っているところがあるように感じてならない。でも、君たちは当然ながらまだ若い。物わかりのいい年寄りじみた大人になる必要はない。卒業生には、そして１・２年生にも、好奇心を持って目の前のことにひたむきにチャレンジして欲しい。転んだら、また立ち上がればいいだけでしょ。後悔しない人生はない。ならば、後ろばかり振り返ってもしょうがない。まっすぐ前を見て進むのみ。そして、思いっきり自分の人生を満喫しようぜ。

（豊川）

◆厳かに卒業式

３月１日、第４４回卒業式が挙行され、卒業生５９名が卒業証書を手にしました。卒業生の返事には３年間の思いが込められ、式歌の最中に感極まって泣いている生徒もいました。また、山田虎太郎君の送辞、菊池廉君の答辞は堂々としていてとても立派でした。１・２年生の式歌・校歌や態度もよかったですよ。

◆１・２月を振り返って

１月の終わりから２月の初めにかけて、本校でもインフルエンザが流行しましたが、臨時休校等に至ることなく終息しました。２月後半に実施された１・２年生の学年末考査では、よく頑張った生徒がいた反面、不合格点（いわゆる赤点）が延べ３６あるなど、努力不足も見られました。頭髪・服装面では、特に卒業式に向けて指導をし、全体的にはきちんとしていましたが、一部の生徒がルール違反をして個別指導を受けました。あと１ヶ月もすれば後輩が入学してきます。先輩としていい手本を示して欲しいと思います。

◆３月の主な予定

８日：入学者選抜（生徒は休み）　11日：採点日（生徒は休み）
25日：教科書販売・顔写真撮影、合格者説明会　26日：修了式・離任式

新年度のスタートに失敗しないよう、いい準備をしよう！

※何かあったら必ず学校に連絡を！　【大間高等学校　３７－２１０９】